

Usage of Au fait

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/9720

Au fait の用法について

阪上 るり子

1. はじめに

フランス語のつなぎの表現のなかで「実際（に／は）、事実」のように日本語に翻訳することができる二つの表現 *de fait* と *en fait* に関する分析を阪上（2001）で行った。このような意味をもつ他の表現としては *dans les faits*, *en effet*, *effectivement* などもある。それらの使いわけを明らかにするには、個々の表現の分析の後に全てを比較・検討したうえでなければ不可能である。

本稿で扱うつなぎの表現 *au fait* は、「実際（に／は）、事実」などの類義表現として即座に挙げられるという程近い意味をもつとはいいがたいかも知れないが、文脈によればこのような意味で用いられることもある。そこで、このような意味で用いられるつなぎの表現全般に関して、それぞれの意味・用法を最終的に明確にするために有益であろうという展望のもとにこの *au fait* の用法をみていく。以下では、2. でこの表現の基本的意味を確認し、コーパスおよび分析手順を明示したのち、3. でこの表現が登場する統辞的位置による分類ごとに実例を検討するという順で進める。

2. 意味価値およびコーパスと分析手順

2.1 意味価値と特徴

フランス語の連結辞に関する代表的な辞書 Grieve（1996）によると、*au fait* の意味価値は大きく二つに分ける事ができるという。いずれの意味にせよ、この表現は主に話し言葉の言い回しであり、書き言葉に登場する場合も会話的な調子で用いられ、連結辞としては先行文脈において含意されている仮定などに関連づけをする、という解説が添えてある。

第一は、発話時における最重要事項ではないが、おろそかにされるべきでない事を、発話者にも共発話者にも直接呼びかけるように示すという意味価値である。*à propos* に近く、日本語では「ついでながら」「それについて考えると」とでも訳することができるような内容を表す。これは疑問文に登場する場合が多く、*mais* と共起することが多いという特徴も指摘されている。

第二は、付随的な事を述べるのではなくて、何かしら既に言及された事、より重要な事でそれに関してその後の議論が進行するような事を共発話者に思い出させる、という意味

価値である。したがって、新たな議論を切り出すような場合にも登場する。文脈によれば、発話者と共発話者とが共有できるような仮説・仮定を明らかにする時、「さて、これについて明らかにしよう」のような内容を示唆するためにも用いられ、他の表現では *après tout* と置換可能である。そして、このようなときは *mais* に先行されることもよくあるが、*donc* や *car* と共起することも多い。この用法の場合は、文や節、パラグラフの冒頭にしばしば置かれ、とくに疑問文の冒頭であることが多い、という特徴も挙げられている。

また、付随的な用法として「実際に」「実を言うと」に相当し、*en fait* や *à vrai dire* なども置換可能な意味で使用されることもあると説明されている。

一般につなぎの表現の用法は、その前後の文脈を検討し、連結されている前後の関係がどのような形で示されているか、を調査した結果を表している。しかし、類義の表現を比較しながら調べると、阪上（2006）で扱った *de toute façon* と *en tout cas* のように、前者に比べ後者は、命題間を連結する機能を果たすというよりもむしろ副詞的に働く、という差異がわかることもある。Grieveはこの点については特に触れていない。本稿では類義表現を比較しながら検討していくわけではないが、*au fait* の実例を検討し、そのような特徴が見いだせるかどうかにも注目しながらこの表現の用法をみていく。

2.2 コーパスと分析手順

コーパスにはFrantextを使用した。1955年以降を下位コーパスとして*au fait*を検索¹⁾したところ某大な生起数が確認できたが、今回の分析のためには、その中の最初の400例をまず抽出した。これらの例には、つなぎの表現の*au fait*ばかりではなく、「一という事実に対し」のような句表現や、慣用的な用法*mettre/faire qn au fait*, *être au fait de* ~なども含まれるので、それらは排除した。その結果残った218例が今回の分析対象である。

Grieveの指摘にもあるように、この表現の統辞的特徴として、文や節、パラグラフの冒頭に登場することが挙げられている。そこで、最も外見的に判別しやすい特徴である登場位置に注目し、それを基準として一次分類を行った。

表1 文中の位置による生起数

	冒 頭	主語の後	動詞の後	文 末	独立で	その他
生起数	129	6	8	25	19	31

この表でも明らかなように、文や節の冒頭に登場することが最も多いという結果が出た。しかし、文の構成要素の内部、主語や動詞の後に登場することもある。それ以外の構成要素の内部にも観察できたので、これらは上の表のその他に分類した。また、話し言葉での受け答えとしてこの表現のみが登場することもあり、それは独立の枠に分類した。この分

類結果から、冒頭位置が圧倒的な割合を占めるわけでもなさそうである、と言えるので、位置ごとにどのような用法が観察できるかを見ていくことは、この表現の特徴として新たな発見を可能にしてくれるであろうと推測できる。

以下では、この表の分類項目順に区分を設け、例の検討を行っていく。

3. Au fait を伴う発話例の分析

3.1 冒頭位置

まず、連結辞としては最も基本的な位置と言える文や節などの冒頭に登場する場合からみていく。この位置に登場する例は全部で 129 にのぼるが、他の接続詞などに先行される場合とそうでない場合という手がかりのもとに分類したところ、先行する表現が無い場合が多く、合計 99 例確認できた。Grieve の第二の用法の記述にあるように、疑問文において用いられていることが多いが、そうでない場合もある。まず、冒頭位置に登場する例からみていこう。

3.1.1 先行する要素が無い場合

他の接続詞などに先行されず、発話や節の冒頭に *au fait* が登場する場合である。(1)-(4) は疑問文中の例である²⁾。

(1) C'est comme Catherine, expliqua ma mère aux autres conasses, à son âge penser que ça lui arrive encore. «*Au fait*, où elle est? Josyane, va chercher Catherine!» «-Elle est sûrement dans la grange, dis-je, sans bouger, car j'avais dégotté un bouquin et je lisais.» (Rocheffort. C., *Les Petits Enfants du Siècle*, 1961, pp. 91-92)

抽出された部分の前と、この発言との間の経過時間が長いかどうか不明なので、それは想像するしかない。ここでは発言の冒頭に登場し、発話者および共発話者が共有する内容に関して、「ところで、彼女はどこ」と相手の注意を喚起し、話題を提供する切っ掛けを与えるような役割をしている。

(2) Aux virages de la route qui serpentait, Béatrice basculait parfois légèrement vers lui. Il sentait alors son bras effleurer le sien. «*Au fait*, depuis combien de temps nous connaissons-nous?» dit-il tout à coup. Elle sourit, eut un mouvement des épaules et du dos qui la fit se pelotonner contre le siège. (Droit, M., *Le Retour*, 1964, pp. 79-80)

ここでは描写文が続いた後、一方が突然始めた発言の冒頭に用いられている。それ以前の発話の内容が不明なので前の文脈との関連性については明らかでない。主題は当事者同士のことであり新たな情報を持し出しているわけではないが、「ところで」と相手に話題について注意を喚起させるための潤滑油的働きをしている。これは Grieve の言う第一の価値に相当するものである。

(3) On appelle caprice tout renoncement de la femme à ses devoirs. Cependant, il ne faut

pas pousser, quand Philippe est venu me dire: *-Au fait, chérie, tu n'oublies pas que nous avons invité Patricia aux Ronces, dimanche? Il a trouvé à qui répondre! -Nous avons invité Patricia aux Ronces dimanche? (Groult, B. et FL., Il était deux fois, 1968, pp. 234-235)*

この例の *au fait* を含む発話の内容では、話者同士が共有している既に了解済みの事柄について、相手に忘れないようにと思いださせる事が言語表現で直接表されている。表現の意味価値は、Grieve の言う第二に相当すると解釈できる。

次は、独白の文章の一部に表現が使用されている例である。

- (4) Et de toute façon, il n'est plus question de descendre, non, ni de chercher encore ces toiles, car ce qui vient de tomber a tout emporté et détruit... Il le sait. *Au fait*, pourquoi le sait-il? On pourrait se mettre en tête qu'il l'a voulu, provoqué! C'est ce que quelqu'un insinue déjà. Mais à nouveau il ne répond pas, les yeux ailleurs. (Bonnefoy, Y., *Rue traversière et autres récits en rêve*, 1987, p. 45)

ある「彼」がそのことについて知っていることを不信に思う心情を自らに問いかけている発話に用いられている *au fait* であるが、これもどちらかという Grieve の第二の意味価値に相当する例であるが、*à propos* で置換することも可能であろう。

文や節の冒頭に登場する *au fait* は、確かに疑問文中での使用が多いが、圧倒的に頻度が高いというわけではなく、他の接続詞などには先行されていない場合の総数のうちの、約3分の2程度であった。疑問文中に登場していない例もいくつかみてみよう。

- (5) Charles se demanda s'il fallait en rire ou en pleurer. Le regard de Mélisende le rassura. Elle l'avait plutôt bien pris. Saisissant l'occasion, il attaqua : *-Au fait*, monsieur le Directeur, et puisque vous tirez le premier, laissez-moi vous avertir que j'ai largement dépassé mon budget ! (Lanzmann, J., *La Horde d'Or*, 1994, pp. 421-422)

発言の冒頭に登場する例であるが、口火を切るための「ところで」のような意味で用いられている。表現を含む発話は命令文で感嘆符が打たれているので、多少、断定的な強い口調の発言であろうことが推測できる。肯定文の語順の表現と *au fait* が共起している例には、命令文でなくても *au fait vous vous souvenez peut-être!* や話者の独白的な文章のなかで *au fait je les pas comptés!* のように感嘆符を伴うもののがかなりある。

- (6) Pascal et Vincent savourèrent dix minutes de silence. --Tu veux me faire comprendre que je joue, dit Pascal paisiblement. --Comment ça? --En me prêtant ce bouquin. --*Au fait*, tu ne m'en as pas dit grand-chose. Pascal ferma les yeux, s'étira, puis, rêveusement, chaque phrase isolée par des silences: --il semble bien que c'était plus simple ... (Clavel, J-P., *Je t'aimerais sans vergogne*, 1967, p. 160)

ここでは、前に話題になった事柄について、相手への確認を要求するような意味で用いられている。Grieve の言うどちらかという第二の価値だと解釈できる。

- (7) il n'avait pas eu le temps de la laisser sécher complètement. Il devait garder l'air marmoréen jusqu'à huit heures et demie. *Au fait*, il était huit heures et demie. Il recommença donc de rire et Claire lui jeta un oeil étonné. (Sagan, F., *La Chamade*, 1965, pp. 29-30)

これは会話に登場する例ではない。前文との関連は明らかで、そのとき実際に指していた時刻を表すための導入表現として「実際に」の意味で用いられている。今回の収集例のうち、半過去形の発話に登場していたのはこの(7)だけであったが、(6)のように「実際に、事実」のような意味に解釈できるのは、複合過去形と共起している場合が多い。今回の収集例のなかでも、肯定文の場合は、概して複合過去形など過去領域を表す時称形のものが多い。既に生じたことを表す完了表現が、より重要な事を思い出させ、その後の展開の進行を促進する役割の表現と結びつく事は自然である。

3.1.2 他の接続詞などに先行される場合

今回の収集例のなかで *au fait* に先行するものは、*mais*, *et*, *et puis*, *non*, *car* の接続詞と *tiens*, *ah* が確認できた。合計 30 例にのぼるが、なかでも *mais* の頻度は高い。接続表現が組合わさる場合、どちらがより強く接続の意味を担っているかは文脈によって異なり、個々の例ごとの検討が必要である。また、文のタイプに関しては、疑問文や感嘆符を伴うものが約半数で、他は肯定文であった。いくつかみていこう。

- (8) *Mais non, y a rien à faire. D'abord nos heures ne collent pas. Moi d'habitude l'école (je viens d'être en vacances), elles sont allées et sont venues tardives. Mais, au fait, qu'est-ce qu'elle fait, mademoiselle, dans la vie? J'en sais rien. Faudra que j'enquête. (Vautrin, J., BILLY-JE-KICK, 1974, p. 24)*

疑問文の冒頭に *au fait* が登場する例である。*mais* がある接続表現に先行する場合、逆接の接続詞ではなくて強調の副詞的に働く事が多い。ここでの *mais* が強調という程強く *au fait* に関与しているとは考えがたい。話題の女性の職業を尋ねる発言の口火を切るための添えもの的存在で、この二つの *mais*, *au fait* で「ところで彼女は」という話題の確認のような働きをしている。次も同様の *mais* と共起している例である。

- (9) *Je n'osais pas être complètement sûre que ce soit "mon" Aurélie. J'avais raison d'ailleurs, car c'en était une autre, on ne revient jamais comme on était partie... Mais au fait, je ne t'ai pas dit comment elle était revenue. Te rappelles-tu de l'image dans notre livre de lecture... en onzième? (Groult, B. et FL., Il était deux fois, 1968, p. 302)*

mais と *au fait* の間にヴィルギュルはなく、この二つがより密接に組合わさり、自分がしなかった行為について相手に確認をうながすような意味で用いられている。

- (10) ... -Tu emporteras ta valise? demande Jean. Il est persuadé que je m'en vais pour toujours; et, *au fait*, si j'emporte mes affaires, pourquoi revenir ici? Plus aucun fil ne

me ligote à cette piaule: ... (Sarrazin, A., *L'astragale*, 1965, pp. 222-223)

これは et が au fait に先行している例であるが、新たな話題を持ち出すための導入表現としての au fait に添えられており、et に強い意味は読み取れない。et に伴われるものは合計 3 例確認できたが、(10)と同様のものである。

- (11) - Mais tu m'avais dit qu'après tout l'idée ne te déplaisait pas? -Oh, j'ai dit ça, j'ai dit ça... j'en sais rien, moi. Ce que je sais, c'est que j'en ai assez. Et puis *au fait*, je ne veux pas aller à la soirée Radeval. -Pourquoi? Je t'ai acheté une robe exprès pour ça! (Groult, B. et FL., *Il était deux fois*, 1968, pp. 220-221)

これは Et puis と共起している今回収集できた唯一の例であるが、発話者同士が問題にしているパーティーへの出席について、というこの場では重要な問題と考えられる事に関して、実際は否定的な気持ちを抱いていることを表す導入に用いられている。Grieve の言う第二の意味価値に相当する例である。

- (12) D'où vint l'obligation d'approfondir? Plus d'un fait, à coup sûr, la motiva, mais signalons surtout qu'il s'agit d'un hasard, car, *au fait*, tout partit, tout sortit d'un pari, d'un a priori dont on doutait fort qu'il pût un jour s'ouvrir sur un travail positif. Puis son propos lui parut amusant, sans plus ; (Perec, G., *La disparition*, 1969, p. 309-310)

理由を表す接続詞 car と共起している例はこの(12)だけであったが、このような au fait は何かを思い起こさせたり、話題をうながすだけではなく、実際に生じたことを「結局のところ」と確認しその後の展開の導入として用いられると読み取れる。

その他、発話の冒頭に登場する au fait が、接続詞などではない表現、non や tiens, などに先行されているものが数例あった。

- (13) ... -mieux-que-je-fasse-ma-signature-comme-ça, ou-comme-ça? Am-stram-gram, tapons au hasard: -Comme ça. -Ah t'es sûre? C'est celle-que-je-faisais-avant. -Non, *au fait*, tu as raison, l'autre est mieux. Allez dépêche-toi, va apprendre ta géographie. (Groult, B. et FL., *Il était deux fois*, 1968, pp. 45-46)

- (14) C'est Mme Beecher-Stowe qui serait fière si elle les voyait déambuler dans les rues, lécher les vitrines, jeter des pourboires aux marchands de journaux... Tiens, *au fait*, les journaux, qu'est-ce qu'ils en racontent ? Ils disent en substance que l'abolition, c'est très joli, mais qu'il est tout de même fâcheux de voir des hommes de couleur. (Blondin, A., *Ma vie entre les lignes*, 1982, pp. 172-173)

これらも上でみた mais や et の場合と同様に、組み合わせることによって特別な効果を生み出すものでもなく、二つの表現が話題を持ち出す導入表現の一部をなしている。

3.2 主語の後

2. 2 の表 1 で示したように、au fait は文の構成要素の間にも登場する。主語の後の位置する例からみていこう。

- (15) ... puisqu'elle avait choisi de s'abandonner sans réserve ni condition à un amant qui la lierait dans la nuit du lendemain et qui la verrait tout à l'heure. Cette heure-là, *au fait*, n'était pas éloignée. Il ne fallait pas être inexacte, il fallait être en avance, au premier rendez-vous, pour inaugurer dignement sa condition d'amoureuse. (Pieyre De Mandiargurs, A., *Le lis de mer*, 1956, pp. 79-80)
- (16) M'a jeté un coup d'oeil d'intelligence. « André Breton, a-t-il dit, passe. » Un livre qui paraît n'inquiète personne : ainsi un homme silencieux dans la rue. Personne, *au fait*, n'a le sens du mystère; nous côtoyons tous les jours de grandes métamorphoses, des prodiges, sans que les paillettes de nos yeux tremblent. (Aragon, L. *Œuvre poétique*, Livre II, 1982, pp. 540-541)

一般に、文頭の主語はそれ以下の部分の主題を示す。その主題に関する述部が始る前に何らかの表現が挿入されて用いられると、その主題をより際立たせる効果を生む。上の2例は、いずれも会話の中ではなく描写のなかに用いられるこのような *au fait* は、Grieve の言う第二の意味、すなわち、より重要な事柄に関する内容が展開されていくことを確認するような用法と解釈できる。他の例も概ねこのようなタイプのものばかりであった。

3.3 動詞の後

次に、動詞の後に *au fait* が登場する例をいくつかみてみよう³⁾。

- (17) ... : " le nombre * * est transcendant ", quelques lecteurs de ces pages, peut-être, ne comprendront pas cette brève suite de mots. Un plus grand nombre sera *au fait* si l'on dit : " le nombre * * n'est racine d'aucune équation entière à coefficients réels. " certains demanderont encore ce que signifie "entière" et ce que sont des coefficients. (Couffignal, L., *Les machines à penser*, 1964, p. 153)
- (18) Le carillon Westminster, oui, y en avait un aussi, le foyer complet du rentier parfait, sonnerie tous les quarts d'heure, qu'est-ce que ça musiquait *au fait*, coups noyés dans une symphonie, ça faisait confortable, calme plat jusqu'à la dernière heure. Clairette, comme son nom l'indique. Est-ce qu'il la trompait déjà ? (Chabrol, J.-P., *La folie des miens*, 1977, pp. 184-185)

このタイプの発話例の主動詞は *être* が多い。(18)の *musiquer* は自動詞で、*être* と同じく目的語などを後に従える事はない。つまり、*au fait* の登場位置を動詞の後とみなすか文末とみなすか、は微妙である。この2例における *au fait* の意味的役割は、述部全体の内容が実際にはそうなるであろう、あるいは実際そうであったこと、というように確認的に事実を表すことである。次の例も文末ではないのでこの枠の例として分類したが、内容的には次の節でみる文末に登場する場合の *au fait* と類似した用法と考えられる。

- (19) - La petite peste! Quand je pense à l'orgueil de Chichi quand il a eu sa médaille. Ce n'est pas lui qui aurait... Mais où elle est, *au fait*, cette abrutie ? Elle était dans la

cuisine, l'abrutie. Sous l'évier. Derrière la boîte à ordures. (Forlani, R., *Gouttiere*, 1989, p. 217)

3.4 文や節の末尾

文や節の末尾に登場する *au fait* は合計 25 例確認できたが、半数以上が疑問文中で用いられていた。

(20) Elle dirigera vers de vagues lointains un regard pensif : « Alain Guimier... Voyons... il y a bien longtemps que je l'ai perdu de vue. Qu'est-il devenu, *au fait*? Il ne manquait pas de talent. Il me semble qu'il préparait un travail, une thèse, sur quoi déjà ? (Sarraute, N., *Le planetarium*, 1959, pp. 136-137)

(21) On se posera quelques questions sur moi, on versera un pleur sur mon absence inexplicée puis, au moment du café, les têtes se pencheront l'une vers l'autre et l'on en viendra *au fait*. On se demandera, en famille, en tout bien tout honneur, quel est le plus bref moyen de me ruiner de la manière la plus sûre, débaucher mes cadres et s'appropriier mes clients. (Bataille, M., *L'arbre de Noël*, 1967, pp. 117-118)

(20)は疑問文の、(21)は肯定文の末尾に登場している例である。(20)では「今は彼は一体何になっているのか」を新たな話題として思い出させるという意味とも、あるいは「それで結局は実際のところ何になっているのか」と結果的なことを確認してそれについて展開していくための導入の意味とも解釈可能である。疑問文の場合はイントネーションによって意味が明確になる場合も多い。ここは両義的な *au fait* である。(21)では表現の前後の記述は単純未来形で示されており、「結局はそのようになるだろう」という帰着的な意味と読み取れるので、Grieve の言う第二の価値に相当する例である。

(22) ... aux îles lointaines et imprécises, regardant l'horizon et regardée par un inconnu qui est tout à fait mon type d'homme. (Mais, qu'est-ce que c'est mon type d'homme, *au fait*? J'ai oublié!...) Bref, quand je projette pour la midinette Mâcherolles des films à la guimauve où elle joue le beau rôle, je me dessine toujours avec dix kilos de moins. (Grout, B. et FL., *Il était deux fois*, 1968, pp. 29-30)

問題の箇所は括弧の内部であるが、独白と考えられる記述で *mais* と共起しており、Grieve の言う第一の意味価値の条件にも該当する例である。ここも、「ところで、私のタイプって一体何かしら」と話題を呼び起こすためにも、「何だったかしら、結局のところは」とより確認的に内容を示すためにも解釈できる。疑問文中に登場するこのタイプの *au fait* に共通して言えることであろう。

3.5 独立で

もっぱら話し言葉で用いられる事が多い表現であるので、問いかけに対する応答部分に登場することも珍しくなく、合計で 19 例抽出できた。

- (23) Pendant le temps qu'elle a duré, mon esprit s'envolait. Je pensais à autre chose. Pour un peu j'aurais dit à Georges: "Fais moi grâce du récit. *Au fait!* Combien te faut-il?..." Pourquoi les mésaventures qui arrivent à nos proches sont-elles si assommantes? (Dutourd, J., *Pluche ou l'amour de l'art*, 1967, p. 46)
- (24) Il a conclu : « Bonne nuit à vous tous. » -Merci, a dit Marcheret. Murraille me prenait à part. Il se frotta l'aile du nez, posa la main sur mon épaule. -*Au fait...* dites... Je viens de penser à quelque chose. Ça vous plairait de collaborer au journal ? -Vous croyez ? J'avais un peu bégayé et le résultat avait été ridicule : ... (Modiano, P., *Les boulevards de ceinture*, 1972, pp. 57-58)

会話において、肯定や否定を表明するために副詞的表現が単独で使用されることは珍しくない。これらの *au fait* もそのタイプと言える。前後の内容について何らかの関連性を示すというよりもむしろ、間投詞的に間を埋めるためのつなぎのような使われかたである。

3.6 その他

ここに分類したものは、3.1 から 3.5 以外のさまざまな位置に登場するもので、全部で 31 例収集できたが、半数強は次の 2 例のように形容詞の間に置かれていた。他方、*au fait* を伴う発話には疑問文が多いというような傾向はみられなかった。

- (25) La première observation, précise-t-il, est rarement bonne: elle s'arrête aux données immédiates, aux apparences superficielles, *au fait* coloré et pittoresque. Cette observation de première main engage trop fortement l'être sensible; ... (Barbault, A., *De la psychanal., A l'astrol*, 1961, p. 30)
- (26) Mais ce qui constituera notre tâche propre c'est, nous semble-t-il, cette sociologie privilégiée du fait littéraire: la sociologie de ce qui est propre *au fait* littéraire, c'est-à-dire de ce qui, en lui, ne coïncide avec nulle autre chose, ni avec l'écrit comme marchandise, ni comme produit de transformation, etc. 4. (Gurvitch, G., *Traité de sociologie*, t.2, 1968, p. 304)

このタイプにおける *au fait* は、先行する方ではなく、後続の形容詞の方がより正確な記述を意味することを示す役割を果たしている。

- (27) Et pourtant, si. Même Bernard Thorr, que je connais depuis des années, qui est sans doute l'ami le plus quotidien, le plus *au fait* de ce que je suis, tout à coup il était un instrument du cauchemar. Je ne le comprenais plus. Il ne me comprenait plus. (Japrisot, S., *La dame dans l'auto*, 1966, pp. 194-195)

この例では、言い換え的表現を導入する二度目の *le plus* の後に挿入的に用いられており、*au fait* が副詞的な役割、「言わば」のように軽く意味を添える程度の働きをしている。次の例(28)は、独白的記述が一定の間を置いて連続するという文章のなかで、名詞グループの後に置かれて、軽く意味を添える程度の役割をしている例と言える。

- (28) Vite dit, dormir!... je perds pas conscience... et puis des hululements vers l'Est... toujours... faibles mais toujours... nous verrons l'aube à la lucarne... l'heure *au fait!*... la torch... ma montre... d'abord quatre heures... et puis cinq... en demi-sommeil... il est six heures... sept heures, debout!... (Céline, L.-F., *Rigodon*, 1961, pp. 68-69)
- (29) Duproux, on ne connaît pas assez les drames des artistes! Dites bonjour à Monsieur Duproux, mon petit. Monsieur Duproux, quoique socialiste SFIO, est un homme de goût, très *au fait* des tendances de la peinture moderne, et c'est grâce à lui principalement que vous avez l'honneur de travailler dans cette mairie. (Dutourd, J., *Pluche ou l'amour de l'art*, 1967, p. 261)

この例では、très という副詞と名詞グループの間に挿入的に置かれ、très から始る副詞句全体の一部をなして Duproux 氏の記述を補助する役割をする *au fait* と読み取れる。

- (30) Des bombes éclataient. Je voudrais donner une précision chronologique, et puisque les meilleurs repères, ce sont les guerres, de quelle guerre, *au fait*, s'agissait-il? De celle qui s'appelait d'Algérie, au tout début des années soixante, époque où l'on roulait en Floride décapotable et où les femmes s'habillaient mal. (Modiano, P., *Villa triste*, 1975, pp. 19-20)

疑問文中に登場する例であるが、発話の主要動詞は非人称構文を形成する *s'agir* で、提示程度の意味しか表さず、文中に置かれてはいるものの、実際には文末の場合の用法と差はなく、「実のところはどの」を確認するような意味を表している。

- (31) Le chat maintenant, ah-ah-ah! Pouny s'enfuit trempé, en feulant et en s'ébrouant, excellent: punis! Pfff, qu'est-ce que ça peut bien faire? On s'en fiche. Pour le chat, *au fait*, ce n'est pas nouveau. On connaît bien le dossier. On en a exécuté un cent pour cent peu avant, de matou. (Bayon, *Le lycéen*, 1987, pp. 136-137)

ここでは、文頭の名詞句の後にヴィルギュルに挟まれて置かれ、後続部分は直示的代名詞 *ce* を主語とする発話で、全体が主題である *le chat* を際立たせる構文と言える構造のなかでその主題を明示するために積極的に働いている、と解釈できる *au fait* である。他にも、文頭の遊離位置にある表現そのものは異なるが、その表現を際立たせるための役割を担うような同様の例がいくつか確認できた。

その他に分類した例の主なタイプを挙げた。なかには文末の場合と類似した用いられたものもあった。今回の 218 例のうちの 31 例という低いとは言えない頻度でこの表現が文中のさまざまな位置に登場し得るという事実は、*au fait* の特徴を示す手がかりを与えてくれると考えられる。

4. おわりに

表現が登場する位置という統辞の手がかりにしたがいさまざまな *au fait* の用法を見て来た。抽出した文脈量が少ないこともあり、表現の意味価値判断は容易でない事も多い。*Grieve* は大きく二つの意味価値をあげているが、この二つの差異は、さほど明確なものではなく、(21)や(22)のようにどちらにも解釈できるという場合が少なくなかった。一般に、連結辞とは、先行命題と後続命題という二つの命題があるときに、その二つに何らかの関連づけをするために機能するものである。*de toute façon* と *en tout cas* のように類似した形態をもつ類義表現であっても、機能の仕方は異なり、*de toute façon* は命題間の連結辞とみなす方が、そして *en tout cas* は明らかな意味を添えはするが副詞的に機能する表現とみなす方が相応しい、という差異があった。今回、検討した例から、確かに *au fait* は、話題の転換を示すためや、重要な内容に関する確認を示すような連結性を表す用法が確認できた。一方、なかでも発言の口火を切る切っ掛けとして付加されているような用法や、形容詞の間に登場して一方がより記述として相応しいことを示すような用法も観察できたことから、強く関連性の意味を表すような連結辞とみなすよりも、むしろ副詞句的に意味を添える役割を果たすのが基本的な価値ではないか、と言えるだろう。

注

- 1 検索を始める前に、分析対象外の例も抽出されることは予想できた。つなぎの表現の分析には、なるべく広い前後の文脈をな含めて検討する事が必要であるが、抽出結果が多すぎてもさまざまな分析過程の円滑な進行に支障がでることが推測できる。抽出結果量を限定するために、今回は表現を含む前後それぞれ2文を検索範囲とした。実際には、それ以上の量の文脈も検索結果として抽出された例もある。
- 2 以下、例の出典の表記は、検索結果の表示頁までを省略記号と共に転写し、*in Frantext* は省略した。
- 3 例(17)の中での**は、*Frantext* の検索結果にはよく見られる現象であるが、元は何らかの記号表記であったものが、電子ファイルのやりとり中に文字変化を起こしたものと考えられる。この文脈では、**が正確にわからなくても理解できることと、他の検索例(動詞の後に登場するもの)にもこのような欠落が多いという理由から、あえて採用した。

主要参考文献

- Combettes, B. (1994) : "Une approche diachronique des connecteurs et des modalisateurs", *Pratiques*, No. 84, pp. 54-67.
- Grieve, J. (1996) : *Dictionary of Contemporary French Connectors*, Routledge.
- 石野好一 (1981) : 「接続詞的表現 *en effet*, *en fait* について」, *Les lettres françaises*, I., 上智大学フランス語フランス文学会, pp.26-33.
- 川北恭子 (2004) : 「連結詞の方法論を求めて」, 『森本英夫先生古希記念『周辺』『TLLMF 合併号』』, 大阪市立文学研究科森本研究室, pp.39-50.
- 阪上るり子 (2001) : 「*de fait* と *en fait*」, 『年報・フランス研究』, 35 号, 関西学院大学フランス学会, pp.123-135.
- 阪上るり子 (2006) : 「*De toute façon* と *en tout cas* -統辞的差異を中心に-」, 『金沢大学文学部論集言語・文学篇』 26 号, 金沢大学文学部, pp.49-64.